

## 事例1 第2学年 内容項目：A 個性の伸長

- |                                |                          |
|--------------------------------|--------------------------|
| ・自分との関わりからつなぐ課題設定              | ・紙芝居形式による教材提示            |
| ・児童自身との関わりを意識して、思考を引き出す発問      | ・比較を通して多面的・多角的に考える様子の見取り |
| ・メッセージを基に自分との関わりで考える様子の見取り1, 2 | ・構造的な板書                  |

### 1 主題名 自分のよいところ

- 2 **ねらい** 自分をだめだと思った場合と自分のよさに気付いた場合を比べる学習を通して、自分の特徴（よさ）を知ることが、自分をもっと好きになることにつながることを理解し、進んで自分のよさを見つけようとする態度を育てる。

**教材名** 「どうして うまくいかないのかな」（出典：どうとく2「きみがいちばんひかるとき」光村図書）

### 3 主題設定の理由

- (1) **ねらいや指導内容について**

本時の主題「自分のよいところ」は、低学年に新たに加えられた内容項目「自分の特徴に気付くこと。」に関するものである。

個性とは、個人特有の特徴や性格であると言われている。児童が自分らしい生活や生き方について考えを深めていく視点からも、将来にわたって自己実現を果たせるようにするためにも重視されなければならない内容である。

この内容における特徴とは、他者と比較して特に自分の目立つ点と捉え、長所だけでなく短所も含まれる。ただし、低学年の児童にとって、自分自身を客観視することは難しい。児童が自分の特徴に気付く契機となるのは、他者からの評価によることがほとんどである。褒められて嬉しかったことが自分のよさや長所につながることに気付いたり、叱られて注意されたことが、短所につながることに気付いたりすることがある。他者との関わりで自分の特徴を知り、実感することによって自分の特徴への気付きがより確かなものになる。長所にも短所にもなる特徴であるが、その特徴をよい方向に向かって磨き上げていくことが長所につながっていく。つまり、自分の長所を伸ばしていくことは、その人固有の持ち味をよりよい方向へ伸ばし、より輝かせ、成長を促す意欲に結び付くものであるとともに、困難に直面したときの心の支えにもなる。自己肯定感の向上や成長を促す意欲は、自分の個性を伸ばすことにつながり、その個性を最大限に生かしていくことがこれからの児童の夢に大きな影響を与えていくものと考えられる。

指導に当たっては、児童の長所を積極的に認め、励まし、児童自身が具体的な場面で芽生えてくる自分の長所にできるだけ多く気付き、実感していけるようにすることが大切である。

- (2) **これまでの学習状況及び児童の実態について**

学級活動「2年の出発」において、自分を見つめ、2年生になった自覚とめあてをもたせ、自分の好きなことや得意なこと、苦手なものを考え、どんな2年生として毎日の生活を送っていくか考えさせた。図工「ひみつのたまご」では、自分や友人の描いた絵を見て、想像したことを話し合い、互いの作品の楽しさや面白さを味わわせた。道徳科の学習でも「おり紙名人—よしざわあきら」を教材に、自分の得意なことや、よいところはどのようにしていくとよいか考えさせ、進んで自分のよいところを見つけていこうとする学習をしている。しかし、現在の児童の様子を見ると、自分のよさに気付いてはいるが、それが本当によさなのだろうかと不安になったり、自信をもてずに投げやりな気持ちになったりする児童も見られる。

この教材を基にした学習を通して、自分の特徴（よさ）を知ることが、自分をもっと好きになることにつながることを理解し、進んで自分のよさを見つけようとする態度を育てていきたい。

- (3) **教材の特質や活用方法について**

本教材には、家では本を上手に読めたり、鍵盤ハーモニカをたくさん練習したりしていても、授業となるとうまくいかない主人公の「みき」が描かれている。粘土で作ったいちごも友達にミニトマトと間違えられてしまう。しかし、みきの家族は、色々なことに一生懸命なみきを褒め、好きだと言う。それを聞いたみきは、自分のことが前よりも好きになるという内容である。

本教材を通して、自分の特徴（よさ）を知ることが自分を好きになることにつながり、更に、自己肯定感の向上や成長を促す意欲にまで結び付けられるようにしたい。

そこで、話し合いにおいて、主に次のように教材を活用する。

- ①みきのよさは何かを考えさせる。内面的な部分に着目させながら、みきのよさを見つけ、そのよさに共感させる。その際、結果は伴っていない現実をどう捉えるかと揺さぶりをかけることで、結果には表れていないみきの本質を考えさせる。
- ②うまくいかない一部分だけを見ているみきと、自分のよさに気付いたみきとを比較することを通して、自分のよさに気付くことが自分を好きになることにつながることを明らかにしていく。一部分だけ見続けることにより、自己嫌悪に陥ってしまった等といった導入での経験を想起させ、自分を重ねながらみきのよさを多面的、多角的に考えさせる。
- ③みきが自分のことを好きになれたのはなぜなのかを考えさせる。他者からの評価を契機として自分の特徴（よさ）に気づき、自分を好きになり、よさを進んで見つけようとする態度を育てたい。

以上の理由から、本主題を設定した。

#### 4 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	<p>1 これまでの体験を想起する。</p> <p>・頑張っているのに、なかなかうまくいかないことはありますか？</p> <p>そんな時どんな気持ちになりますか。</p>	<p>・あるある！</p> <p>・すごくある！</p> <p>・もっと頑張ろう。</p> <p>・また、できない。</p> <p>・なんで、できないんだろう。</p> <p>・すごく落ち込む。</p>	<p>・指導上の留意点 ☆評価の視点</p> <p>・教材の主人公と同様に、自分の中にあるうまくいかない部分をあえて引き出しておくことで、問題意識を喚起し、自分の特徴を捉えるきっかけにつなげる。</p>
<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">自分との関わりからつなぐ課題設定</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;"> <p><b>T</b>：そんな気持ちになると、自分のことをどんな風に思いますか？</p> <p><b>C</b>：嫌だなあと思う。</p> <p><b>C</b>：自分のこと、最低だと思うようになる。</p> <p><b>T</b>：嫌だなあと思ったり、最低だと思ったりしている時に自分のことをいいなって思えますか？</p> <p><b>C</b>：思えない！（発言多数）</p> <p><b>T</b>：今日は、そんなときに自分のことよいて、自分のよさに気付いたらどんないいことがあるか、考えていきましょう。</p> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  <p>児童が今まで思ってもみなかったことを投げかけ、児童の心をつかみ、課題を立てた。</p> </div> </div>			
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">自分のよさに気付くと、どんなよいことがあるかな</p> </div>			
	<p>2 教材「どうしてうまくいかないのかな」を聞き、話し合う。</p>		<p>・紙芝居による読み聞かせにし、話し合いが読み取りにならないようにする。</p> <p>・考える視点を明確にした上で読み聞かせをする。</p>

紙芝居形式による教材提示

T：何をやってもうまくいかないみきさんのよいところはどんなところか探しながら聞いてください。

事前に聞く視点を与えた。



(1)みきのよさって何だろう？



・みきはだめな子じゃないの？自分でだめな子だと思ったらどうなるかな。

- ・失敗しても負けない。
- ・頑張り続ける。
- ・一生懸命作ったいちごを、ミニトマトだと間違えられたのに怒らない。
- ・素直。
- ・うまくいかないのは、頑張っているしるしと思えた。

- ・やる気がなくなる。
- ・暗くなる。
- ・笑顔が減る。
- ・学校に行くのが嫌になる。
- ・友達ともあまり話したくなくなる。
- ・自分のことがどんどん嫌いになる。

- ・導入で自分について考えさせたことや、考える視点を明確にして教材を読み聞かせたことを踏まえ、主人公の気持ちを問うのではなく、自分との関わりを基に、主人公の内面に見られるよさを考えさせる。

- ・主人公のよさに共感させた上で、結果は伴っていないみきの現実をどう捉えるか揺さぶりをかける。
- ・うまくいかずに嫌な気持ちで居続けていると、どんな自分になるか、導入で考えたことを基に、自分事として考えさせる。

児童自身との関わりを意識して、思考を引き出す発問 ※1

T：みんなにも、最初うまくいかない時のこと聞きました。その時の自分のことと同じように考えてください。みきさん、自分はだめな子かなって思い続けたらどうなりますか？

C：顔色が悪くなって、友達と話をしても小さい声になっちゃう。

C：分かる分かる。(発言多数)

C：自分で悪い子だと思つと、どんどん悪くなる。

C：マイナス思考でいると、どんどんダメな人になる。

T：マイナス思考ってわかる人？(数人のみ挙手だったので) マイナス思考って何でしょう。

C：暗い考え。

C：ダメだと思つて、もっとダメになっちゃう。

C：自分の脳みそに、カミナリが落ちるみたいな感じ。

T：その感じ、みんな分かりますか？

C：うんうん、分かる分かる。(発言・うなずき多数)

C：絶望の底に落ちるかも。

T：今までの意見を整理してみましよう。(板書する。) こうなると、どんな気持ちになりますか。

C：鍵盤ハーモニカとか、練習してもできないんだから、時間の無駄だと思っちゃう。

C：「こんなのやめてやる」っていう気持ち。

C：「絶対できないから、もうやらない」っていう気持ち。

C：悲しくなつて自分のことを嫌いって思う。

(2) どちらのみきがよ  
いかな。それぞ  
れのみきを比  
べてみよう。

(中心発問)

- ・よさを知ると頑張る気持ちが強くなっていい。だめだと思  
うとそこで終わる。
- ・よさに気付くと、自分を好き  
になる。だめだと思  
うと嫌い  
になる。
- ・よさに気付くと、やる気も  
っと出る。
- ・よさに気付くと、いつかでき  
るようになると思  
えて頑  
張れる。
- ・よさに気付くと、自分をも  
っと好きになる。

・うまくいかない一部分だけを見て  
いる主人公と、自分のよさに気付  
いた主人公を比較することで、自  
分のよさを知り、自分が好きにな  
ることを明らかにしていく。

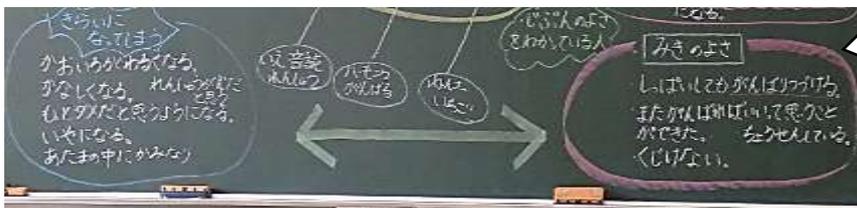
・導入で示した「自分のよさに気付  
くと、どんないいことがあるかな」  
について教材を通して学んだこと  
を整理する。

☆学習課題の解決に向け、よさに気  
付いて嬉しいという表面的なこと  
だけでなく、多面的・多角的な意  
見を基に、自分の特徴（よさ）に  
気付くよさについて考え、話し合  
っている。

(発言・うなずき・表情)

比較を通して多面的・多角的に考える様子を見取り ※2

T : 同じことをしているのに、よさを知って一生懸命がんばるみきと、嫌になっ  
てしまうみき、どちらがいいですか？



嫌になっ  
てしま  
うみきと、よさを  
知ったみきを色チ  
ョークと矢印を使  
って、対比させた。

C : 頑張る方。(発言多数)

T : そうですね。なんで、よさを知ったみきの方がいいの  
でしょう？

C : よさを知ると頑張れる。嫌いになるみきだと、暗い気  
持ちになる。

C : (よさを知ると) 勉強を頑張れる。

T : よさを知ると勉強が頑張れるってどういうことでしょうか？

C : 自分のよさを知ると、やる気が出てくるから。

C : 自分ができると思えるようになる。

C : 練習を重ねていると、失敗してもできるようになる。  
失敗は成功のもと。

C : 嫌いになると本当に嫌だと思  
うけど、ここがいいと思  
うともっとよさを増やしたいと思  
う。

C : チャレンジしているから、これか  
らいろんなことができる  
ようになるかと思えるから。

C : 自分のよさが分かると、友達に何  
か言われても、「違うよ。」と言  
えるようになる。

T : なるほど。自分のよさが分かると、  
自信もついてくる・・・。

C : 何でもできると思っちゃう。

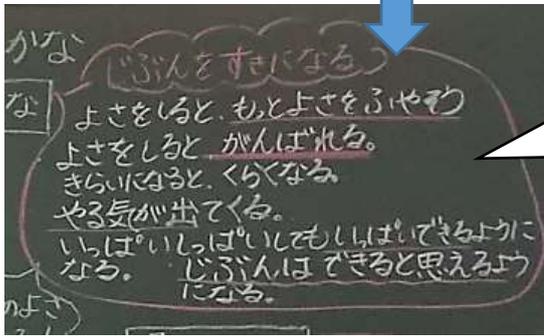
T : 自分のよさがわかると、自分のこ  
とをどう思うようになるでし  
ょう？

C : もっと、自分が好きになる。(発  
言多数)



児童の発言を受け、問  
返すことで、よさを  
知ることについての考  
えを更に深めさせた。

T: そうですね。今日は「自分のよさに気付くと、どんなよいことがあるか」について考えたのですが、自分のよさに気付くと、もっとよさを増やそうと思えたり、頑張れるようになったり、やる気も出て、自分はできると思えて自信もついたりして、自分のことがもっと好きになることが分かりました。  
(板書の部分を赤線引きながら話す。)



導入で示した「自分のよさに気付くと、どんなよいことがあるか」の課題解決に向けて教材で学んだことを、児童の発言から整理していくことで、評価につなげた。

(3)みきが自分を好きになれたのは、どうしてか。

- ・お母さんやおじいちゃんが教えてくれたから。
- ・ほめられたから。
- ・まわりの人を元気にするって言われたから。
- ・自分のことを好きになるようにしたから。
- ・頑張っているって自分で思ったから。

・自分のよさを分かってくれる人がいることは、自分を好きになるきっかけにもなることを理解する。

3 家族からのメッセージを読む。

・家族からのメッセージを読み、自分のよさに気付かせる。

メッセージを基に自分との関わりで考える様子の見取り 1 ※3



うまくいなくても あきらめなくて  
もういちど やってみよう。

ピア)のきょくがむずかしかったり、とけなクイズがあると「○○よんでどうせうたくなんだもんとか」「ばかだもん」とか、おこってやめてしまうことがあるけど、そのあと、ほうておくと、じぶんから、もういちどやろうママおいてよ」といって、またがんばれるところがとてもすてきだとおもいます。

終末

4 今日の学習を振り返って、よりよい生き方を考える。

・今まで、うまくいがないことがあると、すぐに落ち込んで自分はダメだと思ってしまったけれど、今日の学習で、ダメだと思ったことをよい風に考えることで、自分のことが好きになり、自分のことが好きになると、色々なことを頑張れるからどんどんよくなることが分かった。

・発表させることにより、価値を一般化していく。  
☆自分の特徴(よさ)に気付くことが自分を好きになることにつながるについて、今までの自分を見つめながら考え、これからどのように生活していきたいか、ノートに書いている。(ノート、発言)

メッセージを基に自分との関わりで考える様子を見取り 2 ※4

本時の学習を自分との関わりで振り返るとともに、家族からのメッセージを読み、親が認める面を自分のよさとして肯定的に受け止め、それを更に伸ばしていこうとする記述が見られた。

今日とてもいいことをできようって、まあ  
人だしはいあったかなーっと思いたしました。  
ピアノのきよくがはす"かしかたりすると  
おこつてだめてしまうけど"自分で  
もういちどやるからママみてて。と言  
自分でまたかんは"ることか自分のすき  
なところになってこれからでもかんは"ろ  
と書いておきました。

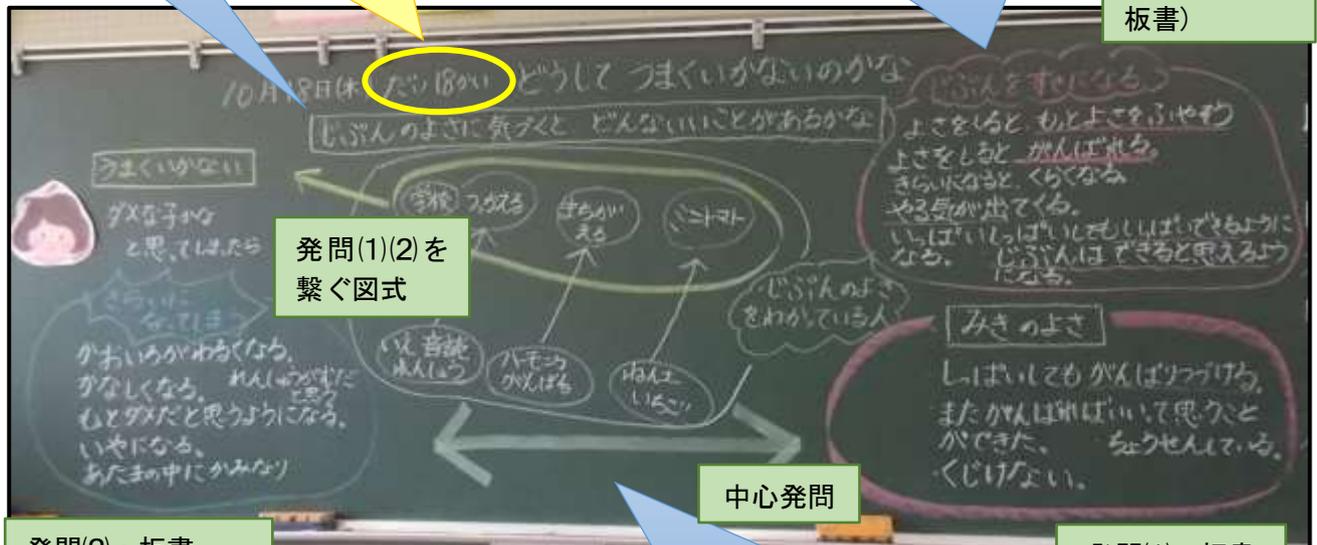
本時の板書（構造的な板書）

学習課題を示した。

授業回数を書き、35時間の意識付けを行った。

学習課題の解決に向け、教材を通して学んだことを整理した。

中心発問から課題解決へ（課題の隣に板書）



発問(1)(2)を繋ぐ図式

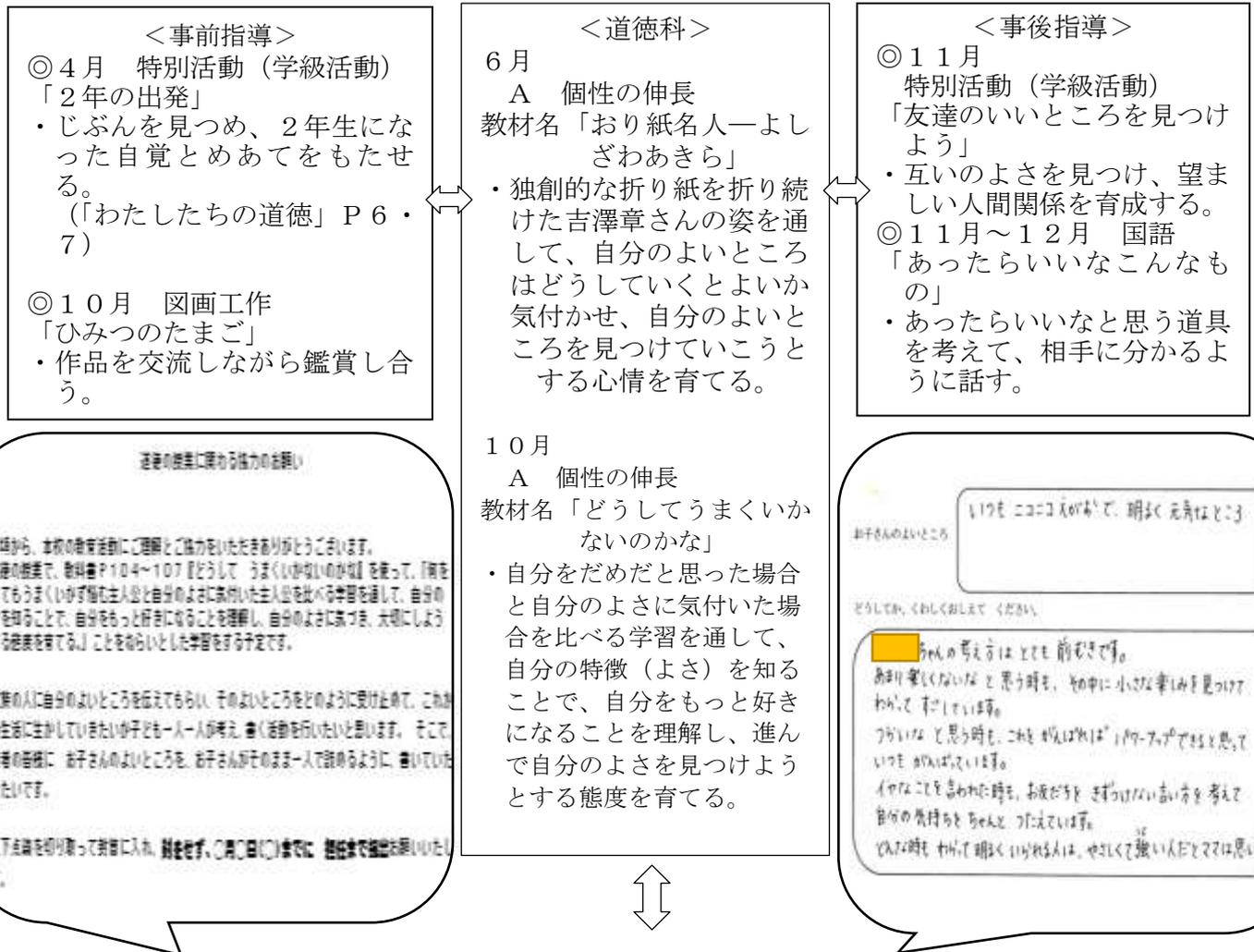
中心発問

発問(2): 板書 対比しやすくするために左下に

色チョークと矢印を使って、対比させた。

発問(1): 板書 右下からスタート

## 5 他の教育活動との関連指導



### ＜家庭との連携＞

- ・家族の人によいところを書いてもらい、自分のよさに気付かせる。
- ・学級通信で児童の学習の様子を紹介し、家庭でも個性の伸長について話し合うよう依頼する。

## 6 評価の視点

### 【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・学習課題の解決に向け、様々な視点から個性の伸長について考え、話し合っている。

### 【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・自分の特徴（よさ）に気付くよさについて、自分との関わりで考えている。

## 7 考察

### (1) 道徳科の目標に示された学習活動

#### ①多面的・多角的に考える学習について

※2では、自分をだめだと思った場合と自分のよさに気付いた場合の比較を通して考えさせた。自分をだめだと思いつつ自分のよさに気付いたら、どんな気持ちになっていくのか話し合うことで、「同じことをしているのに、やる気になり、頑張ろうという気持ちが出る。」といった意見が出た。友達の発言を聞きながら、自分で更に考える場面も多く見られた。「勉強が頑張れる。」と発言した子を契機に問い返し、深く考えさせることで、自分自身に自信が付き、自分を好きになることを実感し、自分の特徴（よさ）を知ることのよさを感じることができた。

#### ②自分との関わりで考える学習について

※1では、うまくいわずに嫌な気持ちで居続けていると、どんな自分になるか、導入で考えたことを基に自分事として考えさせた。自分自身をだめに思う気持ちから、「何もやる気がなくなってしまう。」「友達とも関わりたくなくなる。」「マイナス思考に向かってしまう。」等、多様な意見が出た。



### (3) その他

小学校低学年の発達の段階からすると、登場人物の心情を問う発問が比較的児童の考えを引き出しやすいとされている。しかし、板書を工夫し、自分との関わりを捉えやすくすることで、客観的な発問も可能となり、考えを深める授業を行うことができた。

また、構造的な板書を行うことで、視覚的に児童の思考を整理した。その結果、児童の多面的・多角的な思考が促され、たくさんの発言を引き出すことができた。事前に作成した場面絵や短冊等を活用するだけでなく、児童と共に作り上げる板書にしていくことも大切にしていく。